

安曇野のオオイヌノフグリのような音色が奏でられるミニハープ。

指の病気をきっかけにリハビリで始めたこの楽器と向き合っているとその音色から私の音楽の原点は安曇野なんだと改めて気付かされました。子どものころから安曇野で育ち、地元の人たちに音楽を教えてもらったから今の私があります。これからも音楽を通じて安曇野の皆さんに恩返しをしていきたいと思っています。



伊東 航太さん (16・豊科高家)
たからもの「田淵行男・著
『アシナガバチ』(サイン入り)」



降幡 好華さん (31・明科中川手)
たからもの「あづみの自然とこどもたち」



梅田 有希さん (37・三郷小倉)
たからもの「今まで過ごしてきた時間」



篠原 寛行さん (61・堀金烏川)
たからもの「サザンオールスターズのデビューアルバム」



西村 淳子さん (42・三郷明盛)
たからもの「食の大切さに気付かせてもらった炊飯土鍋」

未来に残したい

私のたからもの



渡部 日茉莉さん・翔陽くん・柚乃花さん
(12・5・8・穂高柏原)
たからもの「カブトムシ」

家族や友達。
そこから広がる輪を大切に暮らす。

家族や友達とのつながり。そこから広がる輪が私のたからものです。その中でも家族の輪が一番大切。そこから知り合いが増えて輪がもっと広がっていきます。20周年は安曇野の皆さんにとっては一つの区切り。今後も何十年も安曇野のいいところを見つけ続けて欲しいと思っています。私はここに住み始めてまだ数年。一年一年、安曇野での「輪」を大切に思いやりを持ちながら、学びつつ暮らしを楽しんでいきたいです。



どこまでも自然な子どもたちの笑顔は世界共通のたからもの。

素直で無邪気な子どもたちの笑顔に元気もらいます。その笑顔は世界共通のたからもの。自然があふれる気持ちのいいここ安曇野は、時代が変わっても大切なものは残しつつ、新しさも融合させている豊かさがあります。20年経っても子どもたちの笑顔が変わらないように、安曇野らしさを表現し続けているのは、この地を愛し大事にしてきた皆さんの力だと感じています。



尾澤 大輝さん・凜音ちゃん
(11・1・明科七貴)
たからもの「家族との思い出」



宮坂 健さん (11・堀金烏川)
たからもの「中信地区小学生陸上競技大会 1000m 第5位の賞状」



丸山 清治さん (79・穂高)
たからもの「小説『安曇野』のルーツ、白金地区」



日詰 恵里子さん (61・豊科)
たからもの「北アルプスと山小屋と登山道」

安曇野の風景・文化を大切に
つなぎ残したい。

創業者のふるさと安曇野と碓氷美術館は当社としても私個人としても後世に残していきたいたからものです。特に5月に訪れた際に見た碓氷美術館のツタと新緑の共演は忘れられません。安曇野には「のどか」という言葉だけでは表せられない魅力があります。本年からコロナ禍で中断していた安曇野での社員研修も再開し、皆さんとの交流の密度を高めます。これからも食と美術と文化をつなぎ、安曇野の魅力を発信していきます。

